

原田三紀夫・中島 正暢・
立野 一郎・荒木 駿二

17歳男子，交通事故による多発性外傷にて来院。進行する貧血，胸部レ線で気管の右方偏移，拡大する縦隔，左肺尖部胸膜の下降，DSAにて左鎖骨下動脈の途絶より左鎖骨下動脈離断と診断し径6mmPTFEグラフトで血行再建術を施行した。

13. 鈍的外傷による心室中隔破裂に対する1手術治験例

Successful repair of rupture of ventricular septum due to blunt trauma.

(群馬循環器病院外科)

太田 淳・永瀬 裕三・原田 昌範

交通外傷による心室中隔破裂の患者に対し，受傷から1カ月後にパッチ閉鎖術を行い，良好な結果を得たので報告する。中隔破裂は2×3 cm，心尖寄りに位置し，周辺組織には線維がみられた。患者は，手術後順調に経過している。

10:31~11:43

座長 於保 健吉(東京医科大学)

14. 縦隔胸膜の一部が欠損し左右胸腔が交通したことにより両側気胸が生じた1例

A case of bilateral pneumothorax through a communication caused by partial defect of mediastinal pleura.

(慶応義塾大学医学部外科学教室)

野守 裕明・中山 光男・川村 雅文・
堀之内宏久・菊地 功次・鈴木 隆・
加勢田 静・小林 紘一・石原 恒夫

18歳男性。本年9月両側自然気胸で手術を施行。左肺尖部分に3cmのbullaを認めたが，右側にbullaは認めなかった。しかし気管分岐部より下方の縦隔胸膜は約15cmにわたり欠損し，左右の胸腔は交通していた。このため右側の気胸はこの交通により生じたものと考えられた。

15. 気胸を呈した両側肺巨大嚢胞の1治験例

A case report of bilateral giant bulla for pneumothorax.

(埼玉医科大学第1外科)

松田 高明・金子 公一・
田口 泰・尾本 良三

38歳男子，呼吸困難にて発症，他院にて両側気胸の診断を受け転院。右持続胸腔ドレナージ後，CTにて両側肺巨大嚢胞の診断を得た。ほぼ右肺上葉全体を占め

る嚢胞に対して切除を施行。3週間後に左肺巨大嚢胞に対して切除及び縫縮術を施行し治療せしめたので報告する。

16. 妊娠に合併した自然気胸の1例

A case of pneumothorax associated with pregnancy.

(東京慈恵会医科大学第1外科)

鈴木 且磨・畠村 泰樹・南雲 吉則・
秋葉 直志・三浦 金次・小林 進・
荒瀬 憲朗・桜井 健司

最近我々は，妊娠14週で発症した自然気胸の一例を経験したので報告する。症例は30歳女性，左肺に約35%の虚脱を認め，手術治療におけび人工妊娠中絶を施行した。妊娠に合併した自然気胸は，本邦では現在までに8例の報告をみるに過ぎず，稀なものと思われた。

17. Myxomatous change を伴った前縦隔神経鞘腫の1例

A case report of schwannoma with myxomatous change in the anterior mediastinum.

(横浜市立大学医学部第1外科)

諸星 隆夫・久保 秋夫・
田村 聡・松本 昭彦

76歳女性，胸部XPで前縦隔に左右1コづつの手拳大腫瘤を認めた。穿刺生検で左 schwannoma，右 myxoma の診断。摘出標本では，左右連続し，ひょうたん型をした左第2肋間神経由来の schwannoma で，右側に myxomatous change と一部に malignant cell を認めた。

18. 縦隔腫瘍を呈した胸腔内硬膜囊腫の1治験例

A case of intrathoracic meningocele presented mediastinal tumor.

(飯田市立病院外科)

志田 寛・津金 次郎
原 克実

70歳，女性，レックリングハウゼン病であったが，右前胸部の手拳大の腫瘤と巨大な左縦隔腫瘍(神経原性腫瘍)の疑いとして入院手術となった。右前胸部の腫瘤は悪性神経鞘腫であった。左縦隔腫瘍は第2，第3胸椎の部分欠損を伴い，その部より発生した硬膜囊腫であった。手技的には問題はなかったが，稀れた縦隔腫瘍の型であったので報告する。

19. 6歳男児，ganglioneuroma の1例

A case report of ganglioneuroma in a 6 years

old boy.

(関東通信病院呼吸器科)

西宮 克明・山田 隆一・熊崎 智司

(同心臓血管外科) 増田 宏・岡村 吉隆

(同病理学検査科) 末松 直美

6歳, 男児, 無症状, 就学時検診にて発見された石灰化の強い左後部隔腫瘍を経験した。腫瘍は4.8×2.8×1.7cm大, 灰白色で固く触知され, 第5肋骨起始部を中心に存在し, 大動脈と接し, 肺に癒着していた。

20. 浸潤型胸線腫瘍摘出術後, 早期胃癌及び急性骨髄性白血病を発症した1症例

A case of invasive thymoma with early gastric cancer and acute myelocytic leukemia.

(虎の門病院呼吸器外科)

友安 浩, 谷村 繁雄・

伴場 次郎・正木 幹雄

(同病理学) 松下 央

症例は60歳男性。検診にて胸部異常影を指摘され精査の結果, 浸潤型胸線腫と診断し, 胸腺全摘術を施行した。術後, 化学療法及び放射線療法を実施した。約3年後に早期胃癌, 更に2年後に肺結核症およびAML(M₂)を発症し, 化学療法を実施したが効果なく死亡した。

21. 胸腺カルチノイドと考えられる1切除例

A resected case suspected cartinoid in the thymus.

(千葉大学医学部肺癌研究施設・外科)

藤野 道夫・ト部 憲和・斎藤 幸雄・

川野 裕・山川 久美・藤沢 武彦・

山口 豊

症例は75歳の男性で自覚症状はなく, 胸部レ線で上前縦隔正中に鶏卵大の腫瘍陰影を認め胸骨縦切開にて腫瘍を摘出した。病理組織学的検索で索状, 為花冠状構造を有し, 電顕的には神経分泌顆粒様物質は認められない異型カルチノイドと考えられる症例を経験したので報告する。

22. 肺腫瘍と鑑別を要した巨大縦隔脂肪腫の1例

Giant lipoma of the mediastinum—case report—

(東京医科大学外科)

酒井 治正・小中 千守・有馬 正明・

河手 典彦・木下 孔明・篠原 秀樹・

鬼頭 隆尚・加藤 治文・早田 義博

縦隔腫瘍のうち巨大脂肪腫の報告例は非常に稀であ

る。今回我々は, 検診胸部 X—P にて左下葉の無気肺様陰影を指摘され, 肺腫瘍と鑑別を要した巨大縦隔脂肪腫を得, 手術を施行したので報告する。

23. 縦隔 cystic lymphangioma の1治験例

A case of mediastinal cystic lymphangioma (Thoracic duct cyst).

(東京都立墨東病院心臓血管外科)

白井 俊純・北川 啓・富田 和久・

今関 隆雄・十九浦敏男

縦隔腫瘍の報告は増加してきているが, 様々な疾患が含まれている。その中で嚢状リンパ管腫は比較的稀な疾患である。今回我々は縦隔嚢状リンパ管腫の1成人例を経験したのでその性状を含め報告する。

24. 縦隔発生気管支性のう胞の1例

A bronchogenic cyst of mediastinum

(国立療養所神奈川病院外科)

岩崎 正之・深井志摩夫・上村 等・

石渡 弘一・納賀 克彦・勝又 貴夫・

相浦 浩一・鈴木 博雅

気管支性のう胞は, 呼吸器疾患としては比較的稀で, 画像診断の進歩にもかかわらず, 常に悪性疾患との鑑別が問題となる疾患である。我々は, 短期間に増大傾向を示し, 画像診断にて悪性疾患を疑った縦隔発生気管支性のう胞の1例を経験したので報告する。

25. 大動脈に穿孔した Achalasia 合併食道癌の1例

A case of esophageal carcinoma with achalasia perforating into aortic arch.

(防衛医科大学校第2外科)

田中 良弘・島 伸吾・土屋 長二・

末吉 晋・吉住 豊・米川 甫・

田中 勲・尾形 利郎

症例は62歳男性。Achalasia 合併食道癌の診断で手術予定中, 大量吐血し緊急手術を行ったところ癌が大動脈弓へ浸潤穿孔していた。穿孔部位よりバルーンカテーテルを挿入して一時的止血を行いながら, 胸部食道全摘・大動脈パッチ閉鎖術を施行した。

26. 右 B₁ 気管支と交通していた食道重複の1例

A case of esophageal duplication with esophago-bronchial fistula.

(自治医科大学胸部外科)

武 彰・羽田 圓城・堀見 博之・

大原 務・早川 和志・福島 鼎・

長谷川嗣夫